



「CS教師の資質② 信仰と希望」

国立キリスト教会教育担当牧師 本澤 敬子

CS教師がもつべき資質の2回目の学びは「信仰と希望」についてです。CS教師は、具体的に何を信じるべきか、そして信仰と切り離すことができない希望とはどのようなものか確認してみましょう。

1. イエス・キリストを救い主として信じる信仰

CSにはまだ救いの確信がはっきりしていない方がお手伝いに入ってくださいる場合もあります。しかし原則として、聖書を教える教師は、洗礼を受け、イエス・キリストを救い主として信じている方でなければなりません。なぜなら、CS教師は常にその救いの喜びを語り、分かち合う者だからです。

大切なのは、今現在、キリストの新しいいのちに生かされているかどうかです。自分が救われている喜びと神の恵みを日々感じ、その感動をもってみことばを語るなら、そこにいる生徒たちはなんと恵まれることでしょう。それはどの方法論にもまさりません。

2. 成長させてくださる神にゆだねる信仰

パウロは言いました。「私が植えて、アポロが水を注ぎました。しかし、成長させたのは神です」（第Iコリント3章6節）。このみことばは、私たちの役割は植え、水を注ぐことであり、実際に成長させてくださるのは神なのだということを意味しています。生徒たちの信仰の成長は神のみわざであり、私たちのわざではないのです。

教師の働きは、たとえ生徒たちが成長しないように思える時であっても、神が必ず成長させてくださることを信じて、ひたすら水を注ぎ続けることです。これは、非常に忍耐を要する仕事です。早く成長する木もあれば、とてもゆっくり成長する木もあります。神にゆだね、誠実に、地道に、あきらめることなく教え続けましょう。神は、みこころの時にまかれたみことばの種を芽吹かせ、成長させてくださいます。

3. 失望しない信仰

よい教師はいかなる生徒を見ても失望せず、教え続けます。ヘレン・ケラーの家庭

教師であったサリバン先生は、ヘレンにテーブルマナーを教えるために、投げつけられるフォークを何度も拾って持たせました。

どんなに心を砕いても、子どもたちが変わらないとき、働きにむなしさを覚えることもあるでしょう。また自分の至らなさに悲しくなることもあるでしょう。そんなとき必要なのは、必ず神は働いてくださる、という希望をもった信仰です。

「聖書はこう言っています。『彼に信頼する者は、失望させられることがない』」（ローマ10章11節）。神は私たちが失望させる方ではありません。それどころか、主の働き人としてのCS教師を希望に満たしてくださいませ。聖書の約束は、空を打つようなものではなく、確信にあふれた希望に満ちています。

どのような状況にあっても、子どもたちの救いと信仰の成長を望んでおられる神のみわざを信じ、働きを続けましょう。

「ですから、私の愛する兄弟たちよ。堅く立って、動かされることなく、いつも主のみわざに励みなさい。あなたがたは自分たちの労苦が、主にあってむだでないことを知っているのですから。」（第Iコリント15章58節）

ディスカッションガイド

①あなたには今、救いの喜びがありますか。もし救いの確信がゆらいでいるように思うなら、正直に他の教師に話し、そのために祈ってもらいましょう。

②一人一人の子どもたちの成長を考えてみましょう。他の子と比べるのではなく、その子の過去と現在を比較し、どのように霊的に成長しているかを考えてみましょう。

③今までにどんなときに壁にぶつかり、働きにむなしさを覚えましたか。あるいは自分に失望しましたか。今の状況もあわせて、分かち合ってみましょう。